

子育ては本能ではない

オラウータンの話です。オラウータンは、チンパンジー、ゴリラ、オラウータンの順に人に近い動物で、人の仲間に入ります。オラウータンは、移動するときは、木の枝から枝に移動していく動物であり、物事をじっくり考え、ゆったりと生活する動物でもあります。

旭山動物園では、メスのチンパンジー、オスのチンパンジーを他の動物園から運んできて、一緒に生活させました。そしたら、赤ちゃんが生まれました。初めて出産を経験したお母さんは、生まれてきたら、何事が起きたのかとびっくりして、赤ちゃんの面倒を見るどころか、少し離れてびくびく奮って怖がっていました。

実は、この母親のチンパンジーは末っ子で、母親が赤ちゃんを育てている姿を見ていませんでした。きっと、子育てを見ていない（学習していない）ので、きっと育てられないと動物園では、予想をしていたそうです。そこで、飼育員がチンパンジーと友達になり、赤ちゃんのぬいぐるみを持って、生まれたら、全身をなめ、抱きかかえ、おっぱいを吸わせてあげるといったことを、繰り返し教えていました。チンパンジーはぬいぐるみを抱え、飼育員の真似をするまでになっていました。しかし、実際に出産すると、何が起きたか分からずパニックになり、震えていたということです。

生まれてから、飼育員は、何とか赤ちゃんがおっぱいを吸うまで、おりの中で一緒に過ごすことになりました。赤ちゃんを母親のおっぱいのところにあてて、吸ってくれないかと格闘すること3日間、ようやく赤ちゃんがおっぱいを吸ってくれました。そしたら、母親は、母性本能にスイッチが入り、赤ちゃんを抱きかかえ、母乳を飲ませることができるようになりました。その後は、赤ちゃんを抱きかかえて離さないで、しっかりと面倒を見ました。やがて、赤ちゃんは、母親を離れて自分で動こうとします。その時には、落下してけがをしないように、赤ちゃんの下に回り、移動を見守りました。

二番目の子では、何もしないでも、赤ちゃんが生まれると、全身をなめ、抱きかかえ、おっぱいを吸わせてあげる、抱きかかえて守る等の一連の子育てができました。その時、一番目の子は、赤ちゃんが生まれたらどうするのか、お母さんがすることをしっかりとみて、学んでいました。赤ちゃんが半年くらい育つと、お母さんから赤ちゃんを借りて、赤ちゃんと一緒に遊んだり、赤ちゃんに移動の仕方を教えたりして、子育てを経験しました。

このことから、母親は、母性本能にスイッチが入らないと子育てができないし、子育てする姿を見ることで学習していくことが分かります。お母さんがしていること、見て学習しているのです。